

# 「栃木県産を知ってもらおう！残さず食べよう！」

前田みゆな(9才)前田ゆりさ(4才)

No21 栃木県宇都宮市 [カテゴリー] 乗り物 [観察場所] 玄関ポスト前

[感想] 残さず食べようというテーマから、いつも何を食べてる？栃木県の有名な食べ物は何だろう？ということを考えるに至りました。この企画には全国の方が参加しているということもあり、栃木県の美味しいイチゴや餃子を知ってもらいたいという思いが芽生え、夏に開業し話題になっている宇都宮ライトラインに、ご当地食材を乗せようと決めました。

ご当地食材に関しては、まずは粘土の色から作れそうな食べ物を決める。無い色は残った粘土で混ぜて作ってみるという手順で、工夫して上手に出来たと思います。

「まだ粘土残ってるね。フルーツが残っているからケーキを作ろう」と、4才の子は残った粘土を使って、いちごのロールケーキを作りました。いつも粘土遊びをするときは、自分の作りたいものを作って、余った粘土のことは気にしていなかったのですが、フードロスの話から、おもちゃであっても残さずに大事に使い切るということを学んだようです。

玄関に設置したため、インターホンを押しにきたお友達や配達の方に「上手に出来てるね！」「これは何？」と聞かれ、「残ったご飯や野菜で作った粘土だよ！」と説明していました。ポスターも貼っていたので、粘土の色が白くなってからも、目を引いたと思います。毎日、通る場所に設置したため、日々観察することが出来ました。大雨の日が続きましたが、雨による変化はあまりなく、「雨が降ったのに溶けないんだね？」と不思議そうに観察していました。

こちらの粘土を通して、親子共々、地産地消やフードロスについて考え、さらには、ダンゴムシの生態や、粘土と水の関係についても興味をもち、学び大きい体験となりました。

設置場所が石の上だったためか、途中から粘土に変化が見られなくなったため、8/26に庭の畑に移動しました。今後も観察を続けていきたいと思っています。

このような素晴らしい企画を考えてくださり、ありがとうございました。

